

2680 ショクシツ

蜀漆 shǔ qī [神農本草經]

【異名】 鷄屎草(鷄屎)・鴨屎草(鴨屎)[日華子諸家本草]。

【基原】 ユキノシタ科の植物, 黄常山(黄常山)の若い枝の葉。

原植物の詳細は常山(→2543)を参照。

【採集】 夏。日干しする。

【薬材】 乾燥した若い枝は円柱形で細く弱い。葉の多くは縮んでしわがあり、朽葉色または緑褐色。完全な葉は楕円形, 広い披針形または長方形の倒卵形, 先端はとがり, 縁には鋸歯があり, 基部は楔形。光沢があってなめらかで毛はない。全体は軽くて薄く, もろくて砕けやすい。特有の鼻をつく臭気があり, 味はわずかに苦い。古い柄がなく, 葉が大きくて砕けておらず, 味の濃いものが良品である。主産地は, 四川, 貴州, 湖南。このほか湖北, 広西でも産する。

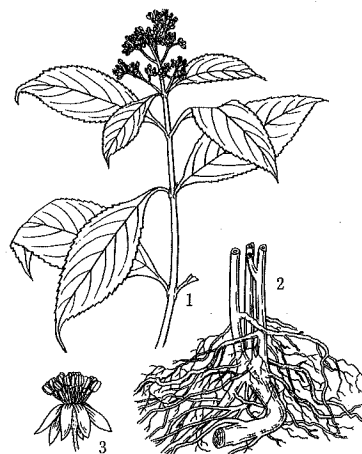
【成分】 【薬理】 常山(→2543)を参照。

【性味】 苦, 辛, 温, 有毒。1 [神農本草經] 味は辛, 平。2 [名医別録] 微温, 有毒。3 [薬性論] 味は苦, 小毒。

【帰経】 [得配本草] 手, 足の厥陰経に入る。

【薬効と主治】 痰を除く, 瘡を截つ, 癰疽積聚を消す, の効能がある。1 [神農本草經] 瘡および咳逆による寒熱, 腹中の癰痞(硬結)邪氣蠱毒の積聚を主る。2 [名医別録] 胸中の邪氣の結滯を療し, これを吐出する。3 [薬性論] 主に長期間治癒しない瘡を治し, 寒熱瘡を去る。温瘡寒熱を治す。4 <張元素> 血を破る, 胆の邪氣を導く。

【用法と用量】 <内服> 1~2 銭を煎じるか, 研って粉末にして服用する。



ジョウザンアジサイ

1.花枝 2.根と茎 3.花

本で藍色, 子房は半下位で1室, 花柱は4本, 柱頭は楕円形。液果は円形, 直径5~6mm, 藍色, 宿存する萼と花柱がある。開花期は6~7月, 結実期は8~9月。樹陰の湿潤な山地に生えるか, または林の下で栽培される。分布は, 江西, 湖北, 湖南, 陝西, 四川, 貴州, 雲南, 広東, 広西, 福建など。本植物の若い枝と若葉(蜀漆→2680)も薬用にされる。

【栽培】 1 気候土壤 日陰で冷涼, 湿潤な気候を好み, 高湿をきらう。肥沃で柔らかく, 水はけがよく, 腐植質の多い砂質壤土がよい。

2 整地 深さ30cmぐらいに耕し, 高さ10~14cm, 幅1~1.4mの高い畝をつくり, 種子繁殖の場合は, 1ム一当り餅肥75~125kgおよび同量の草木灰でつくった基肥を施す。

3 繁殖 挿し木, 種子, 圧条, 株分けなどの方法で繁殖するが, おもに挿し木繁殖, 次いで種子繁殖を用いる。①挿し木繁殖。挿し木の時期は毎年11月から翌年の3月までのあいだ。長さ15cmで, 3個の健全な芽のついた挿し木を切り取る。条間30cmごとに, 深さ15cmの溝を掘り, 溝の一面を少し傾斜させてならし, 挿し木を3~5cmの間隔で並べ, 土をかぶせて押さえる。穴を掘って挿し木をする場合は, 条間・株間各30cmごとに穴を掘り, 1つの穴に挿し木を3本差し込み, そのあと土をかぶせて押さえる。②種子繁殖。3月中・下旬に播種する。播種前に種子を細かい土または細かい砂と混ぜ合わせ, 苗床に均一にばらまき, 少し押さえて, わらを薄くかぶせ, 土壌の温度と湿度を保つ。幼苗が生長發育してから翌年秋までのあいだに, 条間・株間各30cmごとに移植する。

4 耕作管理 育苗期は常に水をかけ, 土壌の湿潤を保つ。雑草を除き, 日よけを張って日陰をつくる。苗が高さ3~4cmになったら, 希薄な糞尿肥を1回施す。過密になったら間引きをする。定植後毎年4回中耕除草を行い, 同時に土かへと追肥を行う。追肥は1ム一当り硫酸アンモニア7.5kg, 餅肥30kgを混合して用いるか, また人糞尿, 過リン酸石灰

2543 ジョウザン

常山 cháng shān [神農本草經]

【異名】 互草(互草)[神農本草經], 恒山(恒山)・七葉(七葉)[吳普本草], 鷄骨常山(鷄骨常山)[陶弘景], 翻胃木(翻胃木)<侯寧極>[葉譜]。

【基原】 ユキノシタ科の植物, 黄常山(黄常山) (和名)ジョウザンアジサイ)の根。

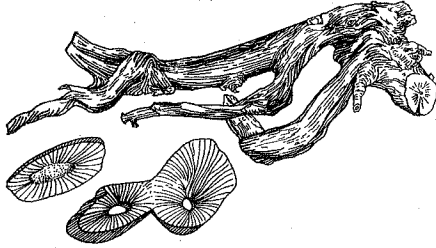
【原植物】 ジョウザンアジサイ *Dichroa febrifuga* Lour. 落葉低木, 高さ2mに達する。茎枝は円形, 節があり, 幼時は黄褐色の短毛におおわれている。葉は対生し, 楕円形, 広披針形または長方状倒卵形, 長さ5~17cm, 幅2~6cm, 先端は鋭先形, 基部は楔形, 縁は鋸歯状, 幼時は両面に黄褐色の短毛がまばらにある。葉柄は長さ1~2cm。散房花序は枝頂または上部の葉腋に着生する。花は淡藍色。包片は線状披針形, 早落する。萼は管状, 淡藍色, 長さ約4mm, 先端は5~6歯, 三角形, 管の外は褐色の短毛が密にある。花弁は5~6枚, 藍色, 楕円状披針形または卵形, 長さ約8mm。雄しべは10~12本, 花糸は長さが不揃い, 葯は藍色。雌しべは1

を施す。冬には厩肥または餅肥を施す。

5 病虫害対策 病害の主要なものは黒はん病で、発病前にボルドー液を噴霧すれば予防できる。虫害にはコクゾウムシ・花面天蛾の幼虫・イネドロハムシ・ダイコンハムシがあり、発見後人工捕殺し、また BHC 粉剤またはヒ素剤を噴霧して殺虫する。

〔採集〕秋。掘り取り、茎苗およびひげ根を除いて洗浄し、日干しする。

〔薬材〕乾燥した根は円柱形、ふつう分岐し、湾曲してねじれ、長さ10~15cm、直径約0.3~2cm。表面は黄褐色、顕著な縦の細い筋



常山薬材

と支根の痕跡があり、コルクは剥落しやすく、淡黄色の木質部が露出している。質は堅く、折ると粉が出る。横断面は黄白色、水で湿らせると顕著な白色の放射組織と、放射状配列がみられる。根茎はほぼ円柱形で塊状に近い。横断面は中央に髓があるほかはすべて根の横断面と同じ。においはかすか、味は苦い。質は堅くて重く、鶏骨のような形をし、表面および断面は淡黄色で光沢がありなめらかなものがよく、根が太くて長く、まっすぐで、質が柔らかく、深い黄色で、苦味のないものは薬用にできない。主産地は四川、湖南。このほかに湖北、広西でも産出される。

〔成分〕黄常山は有効成分(総称)ジクロロインを含み、根は総量約0.1%のアルカロイドを含むが、そのうちおもなものは α - β - γ -ジクロロインで、3者は互変異性体である。さらにジクロロイジン、4-キナゾロン、ウンペリフェロンなどを含む^{1,2}。根および葉から抽出されるフェプリフギンとイソフェプリフギンは³、それぞれ β -ジクロロインと α -ジクロロインと同一化合物である^{1,2}。葉はアルカロイドを総量約0.5%含み、そのうちジクロロインの含有量は根の10~20倍である。このほかに少量のトリメチルアミンを含む^{4,5}。

〔薬理〕**1 抗マラリア作用** 常山の根の水製エキスは鶏マラリア *Plasmodium gallinaceum* に対して顕著な治療効果があり、常山の葉(蜀漆)の抗マラリア力価は根の5倍である¹。しかし再発を防止することはできない²。常山総アルカロイドの抗マラリア力価はキニーネの約26倍³である。 α - β - γ -ジクロロインの鶏マラリアに対する力価はそれぞれキニーネの1・100・150倍⁴である。 β -ジクロロインのカモのマラリア *P. lophutae* に対する力価はキニーネの100倍である^{5,6}。 γ -ジクロロインはカナリアのマラリア *P. relictum*, サルのマラリア *P. cynomolgi* に対しても効果がある⁷。過去の伝統的なマラリア治療の分野では常山

と檳榔(→4613)を併用したが、鶏マラリア試験によると、アレコリン自体には抗マラリア効果はなく、 β -ジクロロインの抗マラリア効果を増強できないだけでなく、 β -ジクロロインで起さる嘔吐に対抗できず、かえって常山の毒性を増加させるという⁸。

2 抗アメーバ作用 β -ジクロロインの *in vitro* での抗アメーバ作用はエメチンより強い。幼いラットにアメーバを感染させたあとの治療効果はエメチンより高く、治癒指数もエメチンの2倍である⁹。

3 解熱作用 常山の粗製エキスは、人工的に発熱させたウサギに対して解熱作用がある^{10~13}。ラットに γ -ジクロロインを服用させると、その解熱作用はアセチルサリチル酸より強い⁷。

4 そのほかの作用 麻酔をかけたイヌの静脈に α - β - γ -ジクロロインを注射すると、血圧を低下させる。呼吸には顕著な変化はなく、脾臓・腎臓の容積は増加し、心臓の収縮振幅は減少し、ウサギの摘出心臓に対して抑制が働くので、血圧の低下は内臓血管の拡張および心臓の抑制によるものである。麻酔をかけたイヌの *in situ* の子宮、妊娠したウサギおよびラットの摘出子宮に対してはすべて興奮させ、妊娠していない子宮に対する作用は定まっておらず、サルに対する降圧と子宮収縮の作用は同量のキニーネを投与した場合と似ている¹⁴。常山水浸液は、*in vitro* と *in vivo* 試験(マウス)によれば、A型インフルエンザウイルスPR₈に対してかなりの抑制作用がある^{15~17}。 γ -ジクロロインは *in vitro* でエールリッヒ腹水癌細胞に対してかなりの死滅作用がある¹⁸。

5 体内過程 ラットに β -ジクロロインを服用させると吸収は良好で、静脈注射したあとすばやく血液から離脱し、腎臓にもっとも多く分布し、心臓・肝臓・筋肉・脂肪および脾臓はその次で、血中にはきわめて少ない。わずかに16%前後が原形のままで尿を通して排出され、糞の中にはきわめて少なく、胆汁の中にはほとんどない²²。

〔性味〕苦辛、寒、有毒。**1**〔神農本草経〕味は苦、寒。**2**〔名医別録〕辛、微寒、有毒。**3**〔薬性論〕味は苦、小毒。

〔帰経〕肝、脾の経に入る。**1**〔雷公炮製薬性解〕肝の経に入る。**2**〔薬品化義〕脾の経に入る。**3**〔要薬分剂〕肺、心、肝の3経に入る。

〔薬効と主治〕痰を除く、瘡を截つ、の効能がある。マラリア、瘰癧を治す。**1**〔神農本草経〕傷寒寒熱、温瘧、胸中痰結吐逆を主る。**2**〔名医別録〕水脹(腸満)、悪寒の長く続くもの、鼠瘻を療す。**3**〔薬性論〕もろもろのマラリア、吐痰涎を治す。寒熱、項下の瘤癭を去る。**4**〔医学入門〕瘧母および腹中積聚、邪気痞結堅癥を治す。**5**〔本草正〕狂、癩、癩厥を治す。

〔用法と用量〕〈内服〉1~3錢を煎じて服用する。または丸剤、散剤として用いる。

〔配合と禁忌〕正気虚弱者、長く病気を

3 〔薬徴統編〕張仲景

の動を治す活法に3通りある。胸腹の動には牡蠣(→4902)で治し、臍下の動には竜骨で治し、胸腹臍下の動が劇しい場合は蜀漆で治している。これが張仲景の活動三活法である。したがって張仲景の処方では、蜀漆に牡蠣を配したり、竜骨を配したりしているの、張仲景の蜀漆を用いた処方として竜骨と牡蠣を配することも考えられるが、本論でこの方法を載せていないのは恐らく脱漏と誤謬に属するものである。したがって晋、唐以来、蜀漆の効を知るものはいなくなった。